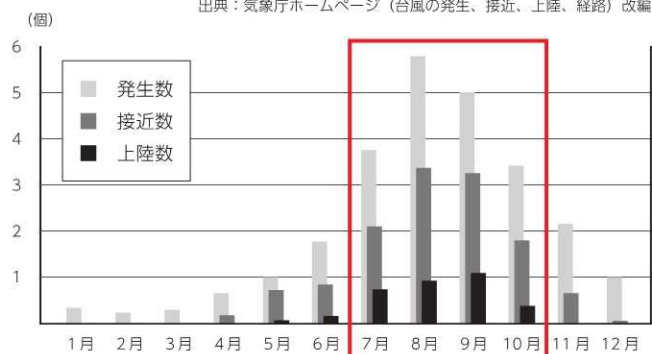


図1 月別の台風発生・接近・上陸数の平均値

(1991～2020年の30年平均)

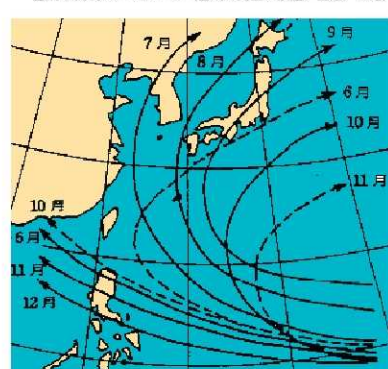
出典：気象庁ホームページ（台風の発生、接近、上陸、経路）改編



そのうち約3個が日本に上陸しています。「図1」のように発生、接近、上陸ともに、7月から10月にかけて最も多くなります。また、台風の月別の主な進路は「図2」のとおりです。発生数では8月が年間で一番多い月ですが、上空の風がまだ弱いために不安定な経路をとることが多く、9月以降になると南海上から放物線を描くように、日本付近を通りやすくなります。このとき、秋雨前線の活動を活発にして、大雨を降らせることがあります。

図2 台風の月別の主な経路

出典：気象庁ホームページ（台風の発生、接近、上陸、経路）



線の活動を活発にして、大雨を降らせることがあります。

平成16年10月20日に京都府を通じた台風23号は、京都府北部地域を中心に豪雨をもたらし、滝地域では時間雨量最大38mm、降り始めから総雨量は195mmを記録しました。旧加悦町内は野田川の堤防の破堤による浸水が、旧野田川町は内水による浸水被害が発生。旧加悦町では200世帯（300人）に避難指示が、旧野田川町では497世帯（1481人）に避難勧告が発令されました。

甚大な被害をもたらした台風23号



平成16年10月20日に上陸した台風23号。京都府北部地域の生活基盤や産業にかつてないほどの甚大な被害をもたらしました。※写真は旧加悦町の様子

【特集】台風の影響・上陸に備える

# 大切な命を守るために

与謝野町は、過去に台風や前線などの影響による浸水害や土砂災害などの大きな被害を受けており、昨年の8月にも台風7号の影響で被害が発生しています。これから到来する台風時期に向け、台風の特徴を知り正しい知識を身につけ、日ごろから気象情報などに注意して、災害への備えを確認しましょう。

図 防災危機管理対策室 ☎ 43-9011

## 警戒レベルと避難情報

※ 内閣府の資料をもとに作成

警戒レベル	避難情報（与謝野町が発令）	とるべき行動
高	警戒レベル5	<p><b>緊急安全確保</b></p> <p>命の危険、直ちに安全確保！ すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。今いる場所より安全な場所へ移動する。</p>
	⚠️ 警戒レベル4までに必ず避難 ⚠️	
	警戒レベル4	<p><b>避難指示</b></p> <p>危険な場所から全員避難 速やかに指定避難場所に避難。移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や自宅内の安全な場所に避難する。</p>
	警戒レベル3	<p><b>高齢者等避難</b></p> <p>危険な場所から高齢者等は避難 高齢者や障害がある方、避難に時間がかかる方は避難を開始。その他の方は避難の準備を整える。</p>
	警戒レベル2	<p>ハザードマップなどで避難行動を確認</p>
低	警戒レベル1	<p>最新の防災気象情報などを確認</p>

参考文献 ● 京都府ホームページ (https://www.pref.kyoto.jp/tango/tango-doboku/documents/gekitoku03.pdf) ● 総務省消防庁ホームページ (https://www.fdma.go.jp/disaster/info/assets/post334.pdf)

過去30年間（1991～2020年）の平均では、年間で約25個の台風が発生しています。

**年間平均で約25個の台風が発生**

大陸と海に挟まれている日本。季節の変わり目には前線が停滞し、大雨を降らせれます。また、台風が日本付近を通過するときも、広範囲にわたり大雨を降らせることがあります。近年は、突然激しい雨に見舞われる「ゲリラ豪雨」に加え、積乱雲が同じ場所ですぐ発生する「線状降水帯」により、激しい雨が数時間にわたって降り続き、局地的に数百ミリの雨量を観測することもあります。大雨などの災害から大切な身を守るには、気象庁や行政（自治体）が発信する気象・防災情報を把握することが重要です。

**毎年、全国各地で大雨による災害が発生**